

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月19日

事業所名:児童デイサービス・アニマート名護うむさの森

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である		4			個々に合った訓練がスムーズに出来るスペースを確保したい。
	2 職員の配置数は適切である		4			急な職員の休みの場合を考え職員の増員対応を検討していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている		4			車いす対応の児童が通所しているがバリアフリー化が されていない為、整備検討が必要である。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	2	2			全職員が共有し書面化していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	1	3			定期的にアンケート等を実施し、業務改善に努めると 共に質を高めていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している			4		平成31年3月20日よりHP公開及び事業所相談室内 に掲示。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		4			今後、第三者による外部評価も検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	4				社内研修はあるが社外研修への参加も必要である。
適切 な支 援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	4				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	4				
	11 活動プログラムの立案をチームで行って いる	3	1			毎月スタッフで話し合い決めている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	4				個々に応じ対応している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	4				月の予定表に個々の支援すべき内容を取り入れて いる。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	4				宿題等の個別支援と室内外での集団活動を取り入れ 作成している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	4				朝のミーティング時間に1日の流れや確認役割分担を 確認している。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	4				終了後は必ずミーティングを行い、1日の中で気になっ た事はスタッフ間で話し合いをする。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている		4			日々の記録はしているが、支援の検証・改善に繋げる まではいっていない場合もあるので、支援会議等で検 証・改善へと繋げていくようにする。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる		4			定期的なモニタリングを実施し保護者や相談支援専門 員との連携も図っていく。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	2	2			スタッフで月1回ガイドラインに目を通すように心がけ ている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			管理者児童発達支援管理責任者が参加し、会議内容はスタッフで共有している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			学校だよりや先生からの申し送り情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				医療的なケアが必要とする児童はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				現在のところ該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4			公園や公共施設等を活用し活動する機会を作っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			4	療育時間と重なる場合が多く、参加することがなかなか出来ていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			連絡帳や送迎時に保護者と情報共有を図っている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2		必要である保護者には行っているが全保護者への対応はきちんとは出来ていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			読み合わせをしながら説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			相談しやすい環境作りに努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		定期的な保護者会の開催を継続していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			苦情等があった場合には、保護者へ連絡を取り、速やかに対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			アニマート新聞を保護者へ定期的に渡ししている。
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		イベント等を企画し実施していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		4			マニュアルの整備はされているが、周知の面では欠けている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2			定期的な訓練は実施しているが、今後スタッフが救急講習等にも参加する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				虐待防止法の対応と理解のテキストを使用して定期的にスタッフで読み合わせを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		4			これまでは記載に欠けていた。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている					対象となる児童はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		4			事例集を作成してはいないが、定期的な社内研修等にて注意することを共有している。